

第5回車座トーク（7月28日 隠岐の島町）でいただいたご意見に
 に対する県の対応 テーマ「農業で地域も自分も元気にしていくには」

1. 来年度に新たに実施または拡充するもの

いただいたご意見	対応状況
県内の母牛を購入する際には補助があるが、県外から母牛を購入する場合にも補助してほしい。	来年度から、新たに、全国の産地から優秀な雌牛を導入する取組に対して支援してまいります。
島根県の種雄牛はあまりいい評価をもらえていない。子牛を高く売るためにも、種雄牛造成をがんばってほしい。	来年度から県外からの優秀な雌牛の導入やゲノミック評価等により、これまで以上に種雄牛造成を強化してまいります。

2. 実施に向けて検討しているもの

いただいたご意見	対応状況
農地を守ることを地区ごとに分担するなど話し合いができればよい。耕作放棄地などの空き地情報を共有し、農家同士がつながる仕組みがあるとよい。	現在進められている人・農地プランの見直し（令和元年度～令和2年度）のなかで、地域の効率的な農地集積・集約について話し合いが行われるよう促してまいります。
県の農業公社に農地集積の希望を出しているが、なかなか集まらない。地元の土地の持ち主も農地中間管理機構のことを十分に知らないの、もっとPRが必要。	現在進められている人・農地プランの見直し（令和元年度～令和2年度）のなかで、地域の効率的な農地集積・集約について話し合いが行われるよう促してまいります。
中山間地域で面積が小さく、農業公社に委託もできないような田んぼをどうするかが課題。	現在進められている人・農地プランの見直し（令和元年度～令和2年度）のなかで、地域の農地集積について話し合いが行われるよう促してまいります。

3. 既に実施しているもの

いただいたご意見	対応状況
省力化に向けたドローンの活用技術について情報を提供してほしい。	ドローンを含めたスマート農業技術について、引き続き、農業者の方などを対象とした研修会や実演会等を開催し、情報発信を行ってまいります。
就農者への支援は、手堅く幅広くにやってもらっている。あとは就農者本人のやる気の問題。県や町はしっかり面接して、やる気のある人が来るような仕組みをつくって、支援してほしい。	産業体験希望者への面接は、希望者、受入れ先、ふるさと島根定住財団担当者（地域によっては市町村担当者）が一堂に会して実施しています。 また、体験内容や生活条件等を説明し、確認し合った上で、全員が合意した場合にのみ受入れを決定しています。 様々な事情により必ずしも定着に繋がらなかったケースもありますが、引き続き体験者の定着に努めてまいります。 なお、新規就農者に対して、引き続き、就農前から就農時、就農後の経営発展のため、きめ細かな支援を行ってまいります。
農業のIターン者を孤立させないように、行政も地域と一緒に支援してほしい。	就農後のサポートとして、個別訪問等によりフォローを行っております。 また、新規就農者の交流会を、毎年度、県内3地区（東部、西部、隠岐）で開催しております。 今後も、関係機関が連携し、早期に経営が確立されるよう支援を行ってまいります。

4. 今後の取組を検討するうえで参考とさせていただきご意見

- ・島根米の将来に危惧を持っている。JAグループは「隠岐藻塩米、石見銀山つや姫、おおちハーブきぬむすめ」をご縁三国結び米として売り込んでいるが、関東の米卸は、こだわり米部門から撤退し、中京の卸は解散する。令和2年産から売り先をどうするのか県もJAと一緒に考えて欲しい。
- ・ふるさと島根定住財団の産業体験事業の助成金は3カ月分まとめて後で支給されるが、1カ月単位で支給することができないか。
- ・高齢者は牛の管理が大変なので、牧野に軽トラックがある程度のところまで入っていけるよう、牧野に道を整備して欲しい。

5. 現時点では取り入れることが難しいご意見

- ・半農半XのX部分の仕事がもっと必要。X部分の雇用主に対して補助金を出して、人件費の負担を軽減すればX部分を行う企業が増えるのではないか。